

授業科目名： 平和演習	教員の免許状取得のため の 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小松 寛 担当形態：単独
実務内容： (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校社会及び高等学校公民)		
各科目に含めることが 必要な事項	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>現代社会における平和実現への課題を論究することにより、「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること」「個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること」に寄与する。</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 現代社会の「平和」とは何かを考察する基本的知識を獲得する。</p> <p>(2) 今日の世界における「平和」への課題を発見し、その解決策を論理的に議論する能力を身につける。</p> <p>(3) 教育における「平和」の扱い方の変遷を通し、教育と「平和」について考察する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>平和を研究対象として発展してきた学問は平和学と呼ばれる。冷戦期に誕生、発展した平和学は、グローバル化を迎えた今日においても戦争のみならず、貧困や環境問題、テロリズムなど多様な地球的問題群を課題としている。その特徴は政治学、法学、経済学、社会学といった従来の学問的枠組みにとられない学際的アプローチにある。</p> <p>本演習では、このような平和学が構築してきた知的基盤に依拠しながら、現代の平和に関わる問題を取り上げる手法について講じる。第一に地球的問題群と平和の関係について、それぞれのイシューごとに理解を図る。第二に戦後日本教育における平和の扱い方について、その展開から特徴をつかむ。第三に具体的事例として「沖縄問題」を取り上げる。一地域に集約された政治・安全保障・経済的問題を多角的に捉えることで日本・アジア・世界における平和について考える。本演習実施にあたり、テキストや参考書のみならず新聞記事などから時事問題も積極的に取り上げることで「平和」を身近な課題として考察する能力の獲得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：平和とは何か-暴力と平和</p> <p>第2回：国際社会の構造と行為体</p> <p>第3回：軍事化と平和</p> <p>第4回：人道支援と平和</p> <p>第5回：経済格差と平和</p> <p>第6回：環境問題と平和</p> <p>第7回：人権と平和</p>			

第8回：ジェンダーと平和

第9回：戦後日本の平和教育の展開（1）戦争への反省と経験の継承

第10回：戦後日本の平和教育の展開（2）射的の拡大と批判

第11回：戦後日本の平和教育の展開（3）焦点の収斂と課題

第12回：事例研究（1）沖縄の政治と平和

第13回：事例研究（2）沖縄の基地と平和

第14回：事例研究（3）沖縄の経済と平和

第15回：まとめ-現代社会における平和への課題

定期試験

*スクーリングでは第12回、第13回、第14回、第15回を実施する。

テキスト

（1）池尾靖志編（2014）『平和学をつくる 第2版』晃洋書房

（2）竹内久顕編（2011）『平和教育を問い直す：次世代への批判的継承』法律文化社

参考書・参考資料等

（1）阿部浩己・島袋純編（2015）『沖縄が問う日本の安全保障』岩波書店

（2）櫻澤誠（2015）『沖縄近現代史』中公新書

（3）多賀秀敏（2010）「平和学の最前線」山本武彦 編『国際関係のニュー・フロンティア』成文堂

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。